

平成29年度 第3回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成29年11月16日（木）午後7時00分～9時00分
開催場所	桜町上水会館
参加者	男性 8名 女性 9名 計 17名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 小金井市の現状について 4 小金井市の未来について 5 意見交換 （1）小金井市の魅力発信・地域の活性化 （2）子育て・子育ち （3）安全・安心 （4）その他（自由意見） 6 閉 会
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成29年度 第3回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんばんは。定刻ですので始めさせていただきます。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

はじめに、配布資料の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第でございます。2点目がアンケートになります。こちらは帰りに回収させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。3点目が「小金井市人口ビジョン 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要版でございます。4点目が「小金井しあわせプラン 第4次小金井市基本構想 後期基本計画」、こちらも概要版になっています。最後に5点目、「平成29年度 施政方針」になります。以上、配布漏れ等はありませんでしょうか。

開会に先立ちまして、事務局より座談会の進め方等につきまして、簡単に説明をさせていただきます。この座談会は昨年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2～4回程度、定期的で開催しているものでございます。通常は市民の皆様と市長のフリートークということで、皆様から自由なご意見をいただきまして、それに対して市長がお答えするという形で実施しているところでございますが、今回は「小金井市のグランドデザインについて」ということでテーマを絞った中で意見交換をさせていただきます。グランドデザインとは、小金井市の新しいビジョン、あるいは未来に向けての方向性といったものを、市民の皆様のご意見を参考に作り上げていく、というようなことをイメージしていただければと思いますが、ピンと来ないという方もいらっしゃると思いますので、本日は初めに職員のほうから小金井市の現状について説明させていただきます。それを踏まえて、市長から小金井市の未来についてお話をさせていただきます。その後、次第に記載しました3つの議題に沿って皆様からご意見をいただくという形で進めてまいりますので、よろしく

お願いいたします。

最後に、事務局から3点ほどご了承いただきたいと存じます。1点目、懇談中は議事録を作成するため録音させていただきますので、よろしくお願いいたします。2点目、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。市民の方の顔等はなるべく写らないように後ろから撮らせていただきますが、ホームページ等の掲載に差し支えのある方はいらっしゃいますでしょうか。大丈夫でしょうか。3点目、本日の終了時刻につきましては、午後9時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。では、次第に従いまして市長の西岡よりご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○西岡市長

こんばんは。平日の夜7時からの開会という時間帯にもかかわらず、市民の皆様との座談会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。市長の西岡でございます。この市民と市長の座談会は年に4回開催しておりまして、今年は5月に2回開催いたしまして、11月にも2回開催させていただきます。今日は、テーマをグランドデザインということで絞らせていただきましたが、しかし、このグランドデザインというものは非常に大きなテーマでもあります。小金井市政として、過去を振り返って、私の知る範囲では基本構想という後ほど説明もあると思いますが、地方自治体の歩むべき道、憲章のようなものを10年単位で築いてつくりあげていくのですが、それを超える将来・未来に向かっての構想というものを、私としては、是非、市民の皆様方と一緒に作らせていただきたいと考えております。今日は初めての開催です。こういった形でグランドデザインということをして意見交換をするのも、おそらく市政としては初めてのことだと思います。基本構想を作るときに、まちづくりカフェですとか、様々な取組があったことは承知いたしておりますけれども、今日は、皆さま方からいろいろな声をいただいて小金井市の未来が小金井市の将来像が小金井市のまちがこういうまちだったら良いな、こういうまち

づくりをしてほしいな、こういう物を残していきたいなという、今日は本当にぎっくばらんに色々な意見、声を聞かせたいと思っています。また、グランドデザインづくりに関しましては、平成30年度、来年度から行政としてもしっかりと位置付けて、ワークショップの開催や様々な手法を用いながら市民の方々にご参加いただきまして、一緒に議論をしながら小金井市の未来像というものを作り上げていくことに挑戦させていただきたい、と考えております。

さて、私は小金井の市長に就任をさせていただきまして、来月、12月18日でちょうど2年目、折り返し地点を迎えるところでございます。この2年間、様々な課題に向き合ってまいりました。後半の2年間につきましても、施政方針に掲げた課題、小金井市が今、持っております基本構想、基本計画に基づいて取組を進め、また、新たな課題もたくさんございますので、小金井市が今、乗り越えなければならない課題としっかりと向き合ってまいりたいと考えております。と同時に、後半の2年間は、グランドデザインづくりというものにも、是非、挑ませていただきたいと考えておりまして、今日は皆様方にお集まりいただきました。ありがとうございます。

従いまして、今日は、私たちも何かシナリオのようなものを用意しているわけではありません。本当にフリートーキングの意見交換会ということにさせていただきたいと思いますから、是非、色々な声を聞かせていただきたいと思いますし、私自身としては小金井市がこうあったら良いなという、私個人としての思いもお伝えさせていただければありがたいなと思っております。私自身は、市民の方々にとって小金井市というまちが、誇りを持てる小金井、住み続けたいと願われる小金井、そして、高い市民の力や地域の力がもっと活かされる小金井というものをめざして市長に就任させていただきました。そして、小金井市としては、緑が萌える、子供が育つ、絆を結ぶ、私はこのフレーズ、とても良いフレーズだと思っておりますが、今はこのフレーズに基づいた大きなスローガンに基づいて、様々な計画を遂行しているところでございます。

冒頭、最重要課題について2つだけ、短くお話しさせていただく必要があるかと思っております。1つは、小金井市の最重要課題の1つである可燃ごみの処理についてです。平成27年に小金井市、国分寺市、日野市の3市で浅川清流環境組合という一

部事務組合を設立いたしました。平成19年に二枚橋焼却炉の停止をしてから、もう10年が経ちます。この間、可燃ごみの処理に関しましては、様々なことがありました。主に、私が都議会議員だった時代になるわけですが、地元の都議会議員として、このごみ問題にも関わりを持ちました。様々なことがありましたけども、最終的には3市で新しい一部事務組合を設立いたしまして、おかげさまで、いよいよこの11月から本体工事がスタートいたしました。平成32年4月からの円滑稼働をめざして、今、準備を進めているところでございます。そして、平成32年4月からいきなり3市の可燃ごみ処理がスタートするわけではなくて、炉を回さなくては行けませんので試験運転を数か月開催させていただいた後に、本格稼働できるように今、準備をしております。改めて、小金井市のごみ処理に関しましては、特に可燃ごみ処理に関しましては、10年間、多摩地域の方々や最終処分場の日の出町の方々等、本当にたくさんの方々のご支援をいただいて私たちの可燃ごみの処理を円滑に行ってまいりました。そのことに、本当に改めて市長として感謝を申し上げるところでございます。これからも、感謝の気持ちを決して忘れることなく、そして、可燃ごみ処理施設の建設地は日野市でございますので、とりわけ日野市の皆様方には、しっかりと構成市としての責任を果たせるように努力をしてまいりたいと思っております。なお、今どういう状況かと言いますと、今年度から枠組みが少し変わり、第2ブロックという多摩地域の中でブロックが分かれてくるんですが、小金井市は多摩地域の中で第2ブロックに位置付けられておりまして、第2ブロックの地域の方々に可燃ごみの処理をご支援いただいております。1つは国分寺市、もう1つは多摩川衛生組合、稲城市にあります、狛江市や府中市、国立市で構成しております。もう1つは新たにふじみ衛生組合様、これは調布市と三鷹市で構成している処理施設です。そして、もう1つが柳泉園組合でございます、こちらは東久留米市にあります、清瀬市や西東京市が構成市になっております。4つの可燃ごみ処理施設で私たちの可燃ごみの処理をお願いしております。従いまして、浅川清流環境組合が試験運転スタート、本格稼働するまでの間は、引き続き可燃ごみの処理をお願いすることになりますので、この点は各市の市長様と信頼関係を構築しながら一生懸命頑張りたいと思っております。あわせて、平成19年に二枚橋の炉が停止してから、小金井市は可燃ごみの処理には本当に苦勞してきた歴史があります。

また、市民の方々に大変なご不安があったことと思います。しかし、この経験が結果的には市民の方々のごみ減量における行政当局も頑張りました、大変大きな成果をあげておりまして、人口10万人から50万人未満の自治体の中では、1人あたりのごみ排出量が一番少ないというデータもございましたし、また、リサイクル率につきましても49.7パーセント、最近では50パーセントを超えているという報告も聞いているんですけども、こちらにも全国的にも上位の状況であります。これもひとえに、市民の皆様方のご理解、ご協力の賜物であると思っております、この流れというものをこれからもずっと大切にしていきたいと思っております。グランドデザインということもありますから、浅川清流環境組合は平成32年から30年間は稼働する予定となっております。しかし、その先のこともやはりこれから考えていかなければいけないと思っております、いつも将来のことを未来のことを考えながら、私たちは仕事をしていかななくてはいけないよね、という話はしているところでございます。

そして、もう1つが、私が市長に就任した際の重要なテーマの1つが庁舎問題の解決ということがございました。私が市長に就任させていただいたのが平成27年12月18日ですが、平成28年3月31日をもって、年間で延べ95,000人の方々が利用されていた福祉会館につきましても、老朽化が著しく耐震上も課題があるということで、閉館をさせていただきました。現在は、暫定的に様々な代替施設で社会福祉協議会でありますとか、多くの方々に、いったん、一時的な場所を借りていただくといったご対応をお願いしております。従いまして、庁舎問題の解決並びに福祉会館の機能回復というものを大きな課題と位置付けて、この2年間、色々な議論を進めさせていただきました。最終的には庁舎につきましても、基本計画が既にありますので、いくつかの検討課題は残されていますけれども、平成25年4月に決定した基本計画をベースとして蛇の目の跡地に建設をする、賃借をしている第二庁舎につきましても所有者の方へ返還をする、ということをして議論を積み重ねてまいりました。今日は時間の関係であまり詳細な説明はできませんが、途中、6施設複合化ということの検討を行い、4施設2機能、そして、一旦ゼロベースで見直しと、色々な経過を辿りましたが、現時点では新庁舎及び新福祉会館につきましても庁舎建設予定地、蛇の目跡地に平成33年度末まで

の竣工をめざす、ということを大方針として様々な議論を積み重ねているところ
でございます。まだまだ、この件につきましては課題がありますけれども、一方で、
この間、進めていなかった課題にも取り組んでまいりました。新庁舎建設予定地の
最終的な測量は終わりました。そして、昭和4年から、当該地がどのような利用をさ
れてきたかについての地歴調査も終わりました。そして、その結果、土壌汚染調査を
するということになりました。汚染の可能性があるということでございます。今般、
その予算も議決されましたので、これから蛇の目跡地で百数か所の土を採りまし
て、土壌汚染調査を行わせていただきます。何かあった場合には、対策を講じてい
くということになります。なお、新福祉会館につきましては、7月から市民検討委員
会を設置させていただきました。庁内で作り上げた福祉会館の基本的な素案を作り
まして、市民検討委員会の方々にご議論をいただいてまいりました。もちろん、私
が述べている全てのことは、市議会の方々からも常時、様々なご意見やご提言、時
にはお叱りや厳しいご指摘をいただきながら、議論を進めているところでありま
す。私としては、閉館してしまっている福祉会館を地域共生社会という、新しい時代
にマッチした形で新たな拠点を庁舎建設予定地に作り上げていきたい。多くの方
々が利用できる、たくさんの方々にお会いできる、地域福祉、地域共生社会の拠
点となるような施設をめざしてまいりたいと思っております。それから、庁舎につ
きましては、本庁舎が築52年、第二庁舎は貸与させてから23年を経過しており、
そういう意味では防災の拠点となる新しい庁舎をやはり早くに作り上げなければ
ならない。熊本地震の際に、いざという時に庁舎が倒壊してしまっていて、庁舎
の中に入れなかったという市長さんにお会いしました。本当に大変な思いをされ
た。駐車場でテントを張って、コンピューターや色々な住民のデータを取りに行け
ないという、大変な状況の中で被災対応をされたという厳しいお話を聞きました。
新たな防災拠点となる新庁舎を築き上げる。それから、現在庁舎機能は分散して
いる状況なので、分散している状況を一刻も早く集約したい。もちろん、職員に
とっての業務効率だけが目的ではありませんで、市民の方々の利便性を高める
という目的があります。本庁舎におりますと、よく市民の方が第二庁舎にきた
方がかなり本庁舎にきております。地図や看板を見ながらどこだろうと探して
いる方が多く、職員や私もすぐに話しかけてご用件は何でしょうかと聞くと、
大体第二庁舎をめざしている方でして、

大変申し訳ないのですが、少し移動していただくようになる旨のお声をかけていただいております。そのような状況の中で、この分散状態を克服していくということも大きな課題であると思っています。いずれにいたしましても、蛇の目の跡地を最大限に有効活用できる方策として、私としては、まず、急がれている庁舎と福祉会館を先行して検討しておりまして、建設方法につきましても調査の委託をしておりまして、どのような形で庁舎建設予定地の中に庁舎と福祉会館を建てるのが最も有効なのか、様々な方策を検討していただいているところでございます。

以上、可燃ごみ処理施設と庁舎・福祉会館に絞ってご報告をさせていただきました。これからも、まだまだ乗り越えて行かなければならない課題がたくさんありますけれども、庁舎・福祉会館、不燃系のごみ処理施設、缶、ペットボトル、粗大ごみ等の不燃系の清掃関連施設である中間処理場も相当老朽化してございます。また、庁舎建設予定地の中に、缶、ペットボトル、古紙等の処理施設がありますが、あちらは暫定施設であります。従いまして、不燃系全体のスキームについて、関係者の方々や地元の方々と色々と議論をさせていただいております、不燃系の施設の将来像というものを作り上げていかなければならない。候補地としては、二枚橋焼却場跡地の北側部分と今現在稼働している中間処理場、この2か所を活用させていただくということを、私たちの基本的な考え方として議論を進めさせていただいております。清掃関連施設については、近隣に住民の方々がいらっしゃいますので慎重かつ丁寧に意見交換をさせていただきながら、一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますが、この不燃系の清掃関連施設も今のままでは持ちません。中間処理場も相当、老朽化してきています。従いまして、この課題も解決しなくてはいけないと思っております。

庁舎については、もちろん、基本計画の中に様々なコンセプトがあるのですがけれども、シンプル、長持ち、頑丈プラス小金井らしさというものを、私は新しい庁舎で大事にしていきたい。今日は、グランドデザインについてですが、今から私たちが作ろうとしている庁舎は、長持ち、頑丈を旨としていますから、途中で修繕する等色々な方策はあるかと思いますが、50年、100年とそれくらい使い続けていく市役所を手掛けていくことになるかと思っておりますので、まさに庁舎建設ということに取り組むこと自体も、将来の小金井を作り上げていく一つの道筋になるかと。庁舎

も福祉会館もそのように考えているところでございます。

それでは、この後、担当から少しお手元の資料について説明させていただいた後に、自由な意見交換会をさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

○司会者

これより、失礼して着座にて進行させていただきます。続きまして、小金井市の現状について企画政策課より説明させていただきます。

3 小金井市の現状について

○企画政策課長

皆様、改めましてこんばんは。私、企画政策課長の三浦と申します。本日は、こちらの手元の資料「小金井市人口ビジョン 小金井市 まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版」というものと、「小金井しあわせプラン」につきまして、数字の話が中心になってしまい恐縮なのですが、ざっとご説明申し上げます。

では、まず市の現状ということで白い方のリーフレットをお手元にご用意いただけますでしょうか。それでは1ページをお開きください。こちらの計画ですけれども、平成27年度、平成28年3月に作成した計画でございまして、若干データが古いところもありますけれども、小金井市人口ビジョンは抜粋でございまして、特徴的な部分をピックアップしてご紹介させていただきたいと思っております。

初めに市の人口です。一番左上のところでございます。お手元の表中には平成27年1月1日現在の数字といたしまして、117,427人となっておりますが、本年10月10日には市の人口が12万人を突破いたしまして、平成29年11月1日現在の住民基本台帳人口は120,194人となっております。当時の人口をベースに内訳を見ますと、年少人口＝0歳から14歳の方が14,072人で全体の11.98パーセント。生産年齢人口＝15歳から64歳までの方が79,432人で、率にしますと67.64パーセント。それから老年人口と申しまして、65歳以上の方が23,923人で全体の20.37パーセントということになっていま

した。左上の囲みの中にもございますとおり、人口増加率は3.52パーセントで26市中3位ということで、26市の中でも当時から人口は少しずつ増えているという状況でございます。

その隣、高齢化率のところでございます。こちらも27年1月1日現在ですが、20.37パーセントでした。平成7年の時点では、高齢化率が12.36パーセントでしたが、20年の間に年々上昇いたしまして、手元の資料では平成29年1月1日現在の、外国人を含む人口総数120,194人に対しまして、65歳以上の方の人数の合計が25,237人ですので、高齢化率にしますと20.99パーセントで若干増加している状況でございます。他方、直近の年少者人口につきましては14,521人ですので、12.08パーセントとなり、こちらも微増という状況になっております。

次に、単身世帯の割合、46.4パーセントのところでございます。小金井市の世帯構成、こちらも平成22年の国勢調査の数値を基にしていますが、単身世帯＝一人暮らしの方の世帯が全体の46.4パーセントを占めています。東京都全体の平均が27.4パーセント、全国の平均が13.4パーセントであることに対しまして、小金井市は非常に単身世帯が多いという特徴になってございます。こちらについての分析ですが、学生さんが多いからなのか、一人暮らしの社会人の方あるいは高齢者の方が多いからなのか、その辺が明確には分かっていないところですが、先ほど申し上げましたとおり、単身世帯が多いことが小金井市の特徴として挙げられます。なお、世帯人員の推移を見ますと、1世帯当たりの人員につきましては、平成2年の段階では2.35人だったものが徐々に減ってまいりまして、平成27年時点では1世帯当たり2.05人となっております。

合計特殊出生率のところでございます。こちらは東京都全体のトレンドといたしまして、やはり全国平均に比べまして常に低いという状況でございますが、小金井市におきましては平成19年あたりから、合計特殊出生率が改善傾向になっていまして、この当時は、東京都が1.15人であったのに対し、小金井市は1.34人という状況でございます。ただ、それでも全国平均よりは若干低めの数字という状況です。また、予定している子どもの数は2人が最も多く、理想とする子どもの数は3人が最も多い状況です。この調査から、理想と現実との間にギャップが生じて

いるものと推測されます。なお、理想的な子どもの平均人数を算出すると、1.83人でした。

次のところでございます。本市の特徴といたしましては、20歳から24歳までの方の転入が非常に多くなっています。20歳代前半の転入超過者数は、493人となっております。一方で、25歳から39歳にかけて転出が多くなり、転入者よりも転出者数が多くなっていることが分かります。おそらく大学入学でこちらにいられて卒業とともに出て行かれるということなのか、あるいはここで生まれ育った方々が、結婚もしくは出産等ライフステージの転機になり、転出が増えているのかと思われまます。

住みやすいと感じる市民の皆様の割合でございます。2ページの左上ですね。当時、16歳から39歳までの市民の方々のうち、75.9パーセントの方が、小金井市を住みやすい、どちらかと言えば住みやすいと感じていることが分かりました。一方、子どものいる方は子どものいない方よりも、住みやすいと感じる割合が約16パーセント低くなっている状況です。

市民の定住意向でございます。こちらは当時の資料でございますが、16歳から39歳までの市民の方々の58.7パーセントの方が、住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたいと感じていることが分かりました。また、分からないと答えた方も22.2パーセントと多く、学生の方も多しこと等から、この年齢層の特徴が出ているものと思われまます。住み続けたいまちの要素では安全・安心が最も求められており、その他自然環境、子育て・子育て環境等が挙げられています。

市内で働く人は27,360人となっております。市外から通勤されている方が15,000人程おられまして、市内で勤められている市民の方よりも若干多い状況でございます。ただ、この27,360人という市内の就業者数ですが、小金井市への転入・転出が多い近隣5市に比べますと、最も少ない人数となっております。特に府中市の市内就業者数と比べると、約4分の1程度という状況です。

次に市内の産業でございます。主要な産業である小売業の年間商品販売額は、649億5,600万円となっておりますが、近隣6自治体の中で最も低い状況です。

続いて産業の特徴についてです。小金井市の産業の特徴について特化係数を見て分析したものでございまして、特徴的なのは、教育・学習支援業の特価係数が5.

22となっていて、大学や研究機関が多いという小金井市の特徴を表しているものと考えています。今後は、この分野の産業育成等の強化を図っていきたいと考えているところです。持家率につきましては、46.4パーセントでした。

続きまして3ページにお進みください。こちらにつきましては、住民基本台帳に基づく市独自の推計となっております。当時の推計では将来人口のピークを平成35年の120,012人と見込んでおりました。この表にないのですが、平成35年頃をピークと見込んでおりました。この時期を過ぎると減少に転じ、平成72年、2060年の人口は99,800人程度と推計しておりました。また、下段の表の人口構成についてですが、年齢3区分で見ると、老年人口の比率は伸び続ける予想なのに対して、生産年齢人口は平成32年度をピークに減少に転じます。2060年の高齢化率は34.51パーセント程度と見込んでおりました。現在よりも10パーセント以上上昇すると推計しております。

4ページでございます。このような状況を踏まえまして、今後の課題として4点ほど挙げさせていただいております。課題1「若年層の転入維持、転出抑制」でございます。15歳から24歳は転入超過、25歳から39歳で転出超過となっていることから、若い世代の転入を維持しながら、若い世代が住み続けたいと思う環境を整えて転出を抑制することが必要になると考えます。課題2「子育て世代の住みやすさの向上」でございます。小金井市の合計特殊出生率につきましては、現在の状況を維持していくことが非常に重要であると考えています。但し、意識調査結果では子どもの有無によって、住みやすさの評価に差異が生じる傾向が見受けられたことから、子育て・子育て環境の充実により子どもを育てやすいと思えるまちにしていくことが重要であると考えています。課題3「暮らしを支える産業の振興」でございます。この課題は、人口に直接的に影響するものではございませんが、小金井らしい地域産業の育成を進めることにより、職住近接によるワークライフバランスの実現等も可能になることから、地域産業の育成も重要だと考えております。課題4「高齢化の進行へ対応」でございます。高齢化率につきましては、このままの推計でいきますと平成57年には30パーセントを超える見込みとなっております。そして、この高齢化率の上昇に伴い、社会保障費の増大、あるいは世帯人口の減少による一人暮らし高齢者の方々の増加も想定されるところでございます。これ

らの課題へ対応していくためには、元気な高齢者の皆様に引き続き働き手としてご活躍いただくことが必要であり、ひいては生きがいや健康寿命を延ばしていくことにもつながるものと考えるところでございます。

その下の「将来展望とめざすべき方向性」のところでございますが、このような課題を踏まえまして、市としてどのような方向性で政策を展開していくか、3つの視点で示しています。視点1「小金井市の魅力の発信と人々の交流から移住、定住への誘因」、視点2「生き生きとした子育て、伸び伸びとした子育ての促進」、視点3「誰もが住み続けたいと思う、安全、安心と自己充足の実現」、このような形をめざすべき方向性として位置付けております。

次のページ、最後でございます。5、6ページをご覧ください。現在、小金井市では、この人口ビジョンにおける視点等を踏まえ、総合戦略において3つの基本目標を設定し、施策を展開しております。基本目標1「小金井の魅力を生み出し、交流人口の増加を図ることにより地域の活性化につながるまち」では、小金井市の強みである自然環境、住環境を活かしながら、駅周辺を中心としたまちの賑わいや小金井らしい地域産業の育成により地域を活性化し、魅力を高め、さらにその魅力の発信により交流人口の増加、回遊性の推進を図り、長期的には移住、定住につなげることを目的とするものです。基本目標2「多様な働き方ができ、安心して結婚、出産、子育てできるまち」では、将来にわたって安定した人口構成を維持できるように、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができるような支援や環境の整備を図るとともに、保護者が子育てをしながら働きやすいワークライフスタイルを取ることができるような社会の実現をめざすものでございます。基本目標3「時代に合った地域を作り、安全、安心に暮らせるまち」では、安全、安心を暮らしの基礎ととらえ、生活環境の整備や防災、防犯の取組を進めるとともに、市民一人ひとりが自己充足を得る場として、地域における人と人とのつながりに根差した地域コミュニティの形成を図り、誰もが生き生きと健康で安全、安心に暮らすことができるまちをめざすものとなっております。こちらのリーフレットの説明について、概略は以上でございます。

もう一方の「しあわせプラン」でございますが、こちらは後程お読みいただければと思いますが、私の方からご説明申し上げるのは、1ページの一番下の表でござ

います。三角形の表が見ていただけたらと思いますが、小金井市の施策の体系は、基本構想、基本計画、実施計画というふうになっております。左下の方にバースケジュールになっていると思いますが、現在、平成29年度につきましては、第4次基本構想、10年間の構想のうち後半5年間、後期基本計画のうちの2年目ということになっています。従いまして、平成32年度でこの「小金井しあわせプラン」の計画期間が終了いたしますので、33年度以降には、これに代わる基本構想、基本計画を作ってまいる予定になっております。数字の説明が多くなってしまい恐縮でございましたが、私からは以上でございます。

○司会者

続きまして、そのような現状を踏まえまして、どのような小金井市の未来にしていくかというところで、簡単に市長のほうからお話しさせていただきと思います。

4 小金井市の未来について

○西岡市長

座ったまま失礼いたします。今、出席している行政の担当職員を紹介させていただきたいと思います。企画財政課長の三浦、行政経営担当課長の堤でございます。主に市役所改革・行財政改革の責任者として、企画政策課長は市政全般の企画・立案の調整をしております。企画政策係長の古賀です。基本的には私と皆様方とで色々な意見交換をさせていただきたいと思いますが、専門的なことや、データ等については担当課長にお手伝いしてもらおうと思いますのでよろしくお願いします。

まず、これから皆様方と大きく4つの点で意見交換をさせていただきたいと思っております。まち・ひと・しごと総合戦略の切り口であります。小金井市の魅力をこれからどうやって発揮していくのか、磨きをかけて残していけるのか、あるいは新しい魅力をどう作り上げていく必要があるのか、そして、2点目が主に子育て、子育て、働き方等、皆様方の大切な毎日の生活に関わることについて、色々な意見交換をしたいと思っております。3点目が、市民の方々の多くが、やはり住むまちとして安全、安心なまちを望んでいますので、地域のコミュニティの在り方にも

なるかと思いますが、その辺のところも意見交換をさせていただきたいと思います。そして、最後には自由意見として、様々なお声をお聞かせさせていただきたいと思っています。

先般、人口が12万人を超えた10月10日、この日に40人くらい人口が増えているのですが、代表する市民の方に記念証を贈呈しようということになりまして、3組の家族の方々が選ばれました。お一人は、この日に出生届が出された男の子です。もう一人は、同じくこの日に出生届が出された女の子です。そして、3組目は、この日に婚姻届と住民票を二人で提出された方々でして、元々小金井は住んでいなかったのですが、入籍をして小金井に転入をしてきました。この3つのご家族の方々に、11月11日、小金井市役所にお越しいただいてお祝いさせていただきました。生まれてまだ1か月の赤ちゃんが来てくれまして、男の子、女の子、本当に光り輝いていました。大切な命です。そして、新婚のカップルの方は、ご主人様が風邪で欠席になってしまったのですが、女性の方は来られまして、色々な意見交換をさせていただきました。その時に、マスコミの方から何故小金井市に引っ越してきたのかと聞かれて、新婚の方が「ほっとして落ち着くまちです。小金井市を選びました。」とおっしゃっていました。とても嬉しいことだと思いましたし、また、人口12万人のお祝いの会をする中で私が思い描いたのは、目の前にいる男の子と女の子の赤ちゃんが、30年後も、50年後もこの小金井で育ち、小金井で暮らし、小金井というまちが持続して発展していけるまちになったらいいなど。新婚のカップルの方々も、小金井を終の棲家としてもらい、ほっとする落ち着くまちですという気持ちが、変わらずにいていただければいいなど、将来のことを思い描いたところがございます。

さて、小金井市の魅力についてですね、どんなところが小金井市の魅力なのかということ、皆様方から一度お聞かせさせていただきたいと思っています。小金井市の魅力と言えはたくさんありますが、まず地の利が良いということ。東京の真ん中で、中央線が市の中央を通っていて、駅が二つあります。この地の利というのは、将来も変わらないことだと思えますけれども、とても良いなと思っています。それから、多くの市民の方々が小金井市の魅力だとおっしゃっているのが、やはり自然環境。公園が多い、緑が多い、湧水がある、この自然環境です。小金井市の世界に誇れる

政策としては、雨水浸透ますというものがあまして、これは昭和50年代に水道事業者や行政、市民の方々が頑張った取組です。降った雨がそのまま地中に戻るとい、さほど難しくはない仕組みですけれども、この設置率が62パーセントでして、これは日本一です。本当に誇れる制度で、降った雨がご自宅のますを通過して地中に浸透していきます。新しくできる家屋には全部、この雨水浸透ますが設置されています。これはとても大切なことでして、昨今、多くなっているゲリラ豪雨などでは、一気に雨水が下水管に流入して溢れてしまいます。従いまして、降った雨が地中に戻る仕組はとても大切なことで、私はこの取組を多摩地域全域に広げて行きたいと思っています。

それから、大学や高校が多いこと、これも大きな魅力です。大学や高校が全くない所の市長さんと話をしたことがありますけれども、望んでいるんですね、地方の方々も。小金井には、これだけたくさん大学や高校があります。今、包括連携協定と言いまして、順次、各大学や専門学校と協定を結んでいます。人事交流をしたり、施設を貸していただいたり、あるいは、その学校の先生方に小金井市の色々な政策作りのお手伝いをしていただいたり、様々な交流をしています。これまで学芸大学、農工大学工学部、亜細亜大学と協定を結んでいましたけれども、私が市長になってからは、新たに武蔵野大学、それから前原町にあります総合学院テクノスカレッジという専門学校と協定を締結いたしました。今後も市内、近隣に更なる拡大をめざして行きたいと思っておりますが、既に締結している5つの学校の方々とはい、より深く、いいお付き合いをさせていただきたいと思っております。

また、公教育の安定性ということも小金井市を選ばれる方からよく聞くお声であります。小金井市の小学校、中学校の取組を大変評価していただいている方もいらっしゃいます。もちろん、課題はたくさんありますけれども、多くの先生方や地域の方々がよい伝統を守ってきていただいております、これも小金井市の大変大きな魅力であると思っております。その他にも、まだまだたくさん魅力がありますので、この魅力について、色々な意見があるかと思っておりますので、是非、皆様方からお聞かせいただきたいと思います。

○司会者

それでは、ここから意見交換に入りたいと存じます。はじめに小金井市の魅力発信、地域の活性化についてでございます。この議題に関しまして、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

5 意見交換

(1) 小金井市の魅力発信・地域の活性化

○市民A

小金井市の魅力発信とか地域活性化というのは、はけの道ですよね。(都市計画道路を)通してしまったら、小金井市最後の砦である森林が、全くの台無しになってしまうんですよね。小金井市の魅力が全然なくなってしまう。魅力発信とか地域活性化とは相容れないものでしょう。これは、小池東京都知事も通すのか通さないのか、訳の分からないことを言っているし、これは何としても守ってほしいですね。はけの道は。そう思います。

○西岡市長

ありがとうございます。今のご意見は、多くの市民の方々からも多様な意見が寄せられているのですが、3・4・1、3・4・11号線という東京都の都市計画道路についてのご意見でございます。様々なご意見がありまして、私としては、もちろん、小金井市が守ってきたはけの緑や野川の自然環境を、皆さんが大好きな環境ですが、これからも将来世代にしっかり残していかなければならないと思っていますし、また、議会の方々からも市民の方々からもたくさんの意見をいただいています。私としては、地元配慮を欠くような事業着手については2つの道路とも希望しない、ということは東京都知事・東京都にお伝えさせていただいております。ちょうど明日、初めてですね。東京都建設局と小金井市民との意見交換会が行われますので、今後の東京都の取組をしっかりと注視しながら、私としても地元の方々の声をお聞きしながら、今後の対応についてしっかりと考えていきたいと思っております。

○司会者

すみません。事務局の方から、ここで1点、補足をさせていただきます。議題3つ、それぞれ均等にお話をしたいと思っておりますので、時間の関係で1つの議題について15分から20分弱で一旦切らせていただきます。その間に、もし、その議題について言いそびれたことがございましたら、最後のその他のところでもう一度伺いますので、進行にご協力をよろしく願いいたします。引き続きまして、この議題につきましてご意見のある方いらっしゃいましたらお願いいたします。

○市民A

この前、町田市市の市議員の方とお話する機会があったのですが、何か町田市では、社会福祉協議会ってあまり言っていないみたいですね。小金井市では、誠に残念ながら、この間〇〇〇〇さんと言う町会長さんで、社会福祉協議会で活躍された方がお亡くなりになって、だけど社会福祉協議会と言うのは、少ない予算でボランティアを集めたり、色々な催し物をやってくださったり、非常に有益な組織なんですよね。だから、小金井市の魅力発信や地域活性化と言ったって、町のお役人さんが色々やったって何だよ、ということになるけど、市井の人間が皆、社会福祉協議会を中心にやっていった方がよいのではないかと思うんですよね。社会福祉協議会をどのように捉えておられるのか、そこのところを・・・。

○西岡市長

社会福祉協議会はですね、地域福祉を担っていただくとても大切な、小金井市にとってはある意味パートナーのような組織でありますし、自立生活支援でありますとか、色々なことに取り組んでいただいております。これから、先ほど申し上げました仮称新福祉会館の中にも、重要な機能として入って来ていただきます。社会福祉協議会も様々な課題を抱えていますが、これからも社会福祉協議会は将来にわたって残る、また残っていただきたい組織だと、大切なパートナーだと思っています。また、今年から社会福祉協議会との人事交流をスタートしました。市からは課長級の職員を出し、社会福祉協議会からも市役所に来ていただいて、お互いの組織を知るといことで良い研修になりますので、そういったことも取組としてスタートさ

せていただきました。

○市民B

社会福祉協議会というのは、長年、色々な活動をされていますけれども、私の地域の自治会の人たちの意見を聞くと、社会福祉協議会は募金集めをやってくれない。市民には、直接影響はあまりないけれども、社会福祉協議会の募金で障がい者の方等にいろんなものを寄付したりしている。でも、地元の人たちに対しては、社会福祉協議会のあり方があって良かったという実感はないというのが、大体の自治会の人たちの意見ではないかなと、そのように感じておまして、社会福祉協議会というのは、地域のそれぞれの住民に、だったらもっと寄付しようよという気持ちになるような活動をしてほしい。そのように思います。

○西岡市長

ご意見として承りました。ありがとうございます。小金井市の魅力発信ということも、ご意見としていただければありがたいなと、小金井市で大事にしたい魅力とかですね。

○市民C

○町に住んでいる○○と申します。公約に道路のベンチというのがあったと思うのですが、私は介護をしておまして、昨今、付き添いで散歩等をするのですが、やはり疲れるので、椅子とかベンチがあったらもう少し気軽に……。どうしても疲れてしまうので、そのしんどさを思うともう出ない、という感じになってしまうんですよ、氣力的に。あそこのベンチまで何とか行ければ、天気もいいし日向ぼっこでもと思えるので、是非、推進を。地元の企業や地主さんと協力をして。この間、オーケーの下を通りましたら、高架下に何個かベンチができておまして、そこは色々な方が座っていました。それを見て、ああいいなと思いました。これから超高齢化が進みますし。あと、子育て環境ということを考えますと、小さなお子さんを抱え、大きな荷物を抱えて外出することが多い子育て中のお母さんは、少し座って休めるようになれば良いのではないかなと思います。

緑の環境が多いので、私も小金井に住んでいます。新宿へのアクセスも良いですし、私は夜遊びが好きなのでというわけでもないのですが、終電が一番遅くまであるというのも魅力的なんですね。それで東小金井と言うのは、中央線の中で一番、降り立ったらすぐに細い道がある感じなので、すごくほっとするんですね。ですので、この東小金井の環境は守っていただきたいなど。駅前をガーデンと開発して駅まで遠い感じにするのではなく、このまま高齢者も歩きやすいような、そういうまちにしていけたら良いのではないかと感じております。

○西岡市長

ありがとうございます。とても大切なご意見をいただきました。ベンチでございますが、私自身の父が5年間、心不全と脳出血を患ってですね、体の左半分が全部麻痺をしてしまって、一生懸命リハビリをして、杖をついて、家の近所を散歩できるようになったんですね。残念ながら3年ほど前に他界してしまいましたけれども、入退院を繰り返す大変な日々だったんです。そんな時に父から、座るところがないんだよということを言われまして。私は、東八道路の近くに住んでいるのですが、新小金井街道にも東八道路にも座る所がないので、いつも木に寄りかかっていたという話を聞いた時に、そうなんだなあという思いがありまして。構造的に難しい所はありますけれども、散歩のコース等には是非ベンチを置いていきたいと思っています。一番最初におかせていただいたのが、今、ご指摘をいただいた3・4・12、庁舎建設予定地の高架下の所、村越さんの会社のところですね。小金井桜の苗木を6本植えたのですが、非常に広い歩道だったので、道路の担当課とも相談いたしましてベンチを置きました。とても喜んでいただいて、非常に多くの方が座っていただいております。ただ、ベンチを置いたら、トイレも置いてほしいと言われまして、なかなかトイレというのは今すぐには難しいのですけれども、とても喜んでいただいておりますので、市民や議会からも色々なご要望はありますし、ベンチは作っていきたくて思っています。中には、寄付金を集めて自分の名前を刻んだベンチを置いている所もあります。これは、東京都の公園協会が初めてスタートさせた思い出ベンチという、何かの記念に、確か10万円を寄付すると自分の名前が入ったベンチを置いてくれるという取組がありました。小金井市の将来を考えたときに、このよ

うな休める場所があると言うのは、とても良いだろうなと思います。

それから、中央線も大事ですね。確かに中央線というのは、小金井市の大きな魅力であると思います。ただ、ダイヤの乱れですとか、遅延や事故が多いですとか様々なご意見やご不満を私も聞きますし、特別快速や通勤快速を停めてくださいという要望もあるのですが、申し訳ない、なかなか難しいです。ただ、小金井には始発があるのではないですか、と。これは小金井市のアドバンテージですよ。それから終電もありますよ、ということで、中央線も小金井市の大事な大動脈であり魅力の一つだと思います。今後、私が是非やりたいなと思っているのは、最近、人身事故もありますし、中には障がいのある方、目の不自由な方が転落する事故もありましたので、ホームドアをなるべく早く中央線沿線の駅にも設置してほしいということで、要望活動をしています。それからもう一つは、2020年に10両編成の中央線の車両に、2両のグリーン車を入れるということがJRから発表されていました。結果として目標年次が遅れてしまうようではすけれども、今後、特急が止まらない駅等は全部、ホームを40メートル程度延伸する工事が始まって、中央線の全編成にグリーン車が2両入ってくる。これによって、混雑の緩和にもつながるとJRからは聞いています。現在、187パーセントの混雑率ですよ。ラッシュは、働き方改革で解消するべき課題だと思っていますけれども、このグリーン車両の導入は、是非、将来の小金井市にとっても実現してほしいな。なぜかと言いますと、小金井には始発があるので、グリーン車に座れると思うんですよ。そのようなことも楽しみの一つとして考えております。

○市民D

先程の都市計画道路の話なのですが、明日、説明会が初めてあるということですが、その説明会のあり方とかが、問題視されている方々にはすごく不本意なものだという話が聞かれているところです。私も説明会に申し込みまして、50名限定で抽選で選ばれたんですが、私は選ばれませんでした。何人落ちたかというと5人だけなんです。ならば最初から申込者全員参加でも、そんなに無理なことではないかと思うし、そもそも地元への配慮を欠いた事業着手を希望しないというお話を東京都にされたと思うので、もう少し、説明会の在り方を改善していただきたいとい

うことを東京都に要望していただけないかと思います。

○西岡市長

今、いただいたご意見は東京都にお伝えします。東京都が小金井市に入って市民の方と向き合うのは、初めてとなる意見交換会が開催されます。元々、私も都は(説明会を)やるべきだと思っていましたし、地元の方、市民の方からも東京都と意見交換をする場がほしい、というご要望があったので、そこはしっかり受け止めています。ただ、市議会の議論にもありましたけれども、説明会の在り方について、小金井市に大切な情報提供がすぐになされなかったことや入札の動向など色々ありましたので、小金井市としては開催について色々担当からは意見を申し上げさせていただきました。

○市民D

今後の説明会の在り方について、もう少し(参加できる)人数を増やしていただきたいし、道路を作ってほしいという住民の方もいらっしゃると思うので、そういう方と道路を作ってほしくないという方が、もっと意見交換をできる場としてほしいと思います。できればですが、都だけではなく、市でもそのような機会を設けていただければ良いと思うのですが、そこも検討していただきたいところです。

○西岡市長

まず、数百人規模の意見交換会を開催したいと聞いておりますので、段階的にそのような機会も準備されると考えています。都の事業なので、市としては検討する時間をいただきたいと思いますが、平成34年度からスタートする新しい都市マスタープラン作り、これも将来に関わることでございますが、この議論につきましても、これから市民参加で入っていきますので、当然、今の都市マスタープランの中にも3・4・1、3・4・11について市民参加で方針を定められていますが、当然、その内容は引き継がれていくのかなと思います。今日は、30年後、50年後の未来につきましても、色々声を聞かせていただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○司会者

それでは、魅力発信等に関連するご意見が、まだあるようでありましたら最後のその他の所をお願いしたいと思います。続きまして、子育て・子育てについてでございます。この議題に関しまして、市長のほうから簡単をお願いいたします。

(2) 子育て・子育て

○西岡市長

関心の高い方が多いと思いますので、私の発言は控えたいと思いますけれども、やはり子どもにとって良いまち、子育てをしやすいまちというのは、とても大切な視点だと思います。先程、人口のこともありましたけれども、このまま行くと生産年齢人口がどんどん少なくなり、当然、税収も減っていく。そして、高齢化は避けられない状況ですから、最終的には34パーセント、3人に1人という状況になって行くわけですね。現在は一服していますが、先程説明した人口98,000人で生産年齢人口がどんどん減っていき、子どもの数も減っていくという流れをどこまで小金井というまちが抑制できるか。むしろ小金井というまちが、子育てが楽しいまち、子育てさせるなら小金井が良いと言ってもらえるまちになるということも、魅力の一つにしたいと思っています。課題はたくさんあります。現在、待機児童解消のために一生懸命保育施設を作っていますが、これから先、まだまだ人口が伸びていきます。当初は平成35年に12万人になると予想していましたが、今年、6年も前倒しで到達しました。平成22年から平成27年の5年間は、毎年平均600人強の人口増加でしたが、平成28年度だけで1,300人も人口が増加しました。これはとても嬉しいことです。若い子育て世帯の方も、小金井市に多く転入して来ていただいているということを担当から聞いております。きちっとしたデータは出しておりませんが、この流れは大事にしていきたいと思っています。産み、育て、その子供たちが小金井で学び成長していただける、小金井というまちを故郷だと思っていただける、ずっとこのまちに住み続けようと思っていただける、そのようなまちを作りたいと思っています。そのためには、今を生きる皆様

方の子育て環境を改善していかなければならないということで、様々なことに取り組んでおりますので、子育てを終えたという方もいらっしゃるかと思いますが、是非、色々なご意見をお寄せいただければ大変ありがたいなと思っております。

○司会者

それでは、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

○市民E

私はもう後期高齢者なのですが、おかげさまで元気ですね。小金井市に引っ越してきたのは5年前なのですが、老人会がすごく活発です。大勢の高齢者がいる中で、これからの子どもたちに何とか元気に育ってもらいたいという思いが強くて、5月から毎月1回、子育てサロンのお手伝いに行き始めました。私どもの子育ての時は、隣近所が自分の子や隣の子を皆で育てたという記憶があるのですけれども、今は核家族になってしまって、とても困っている若いお母さんが多いですね。それで子育てサロンでお手伝いをすると、とても喜んでもらえるんです。老人会に元気な方が大勢いらっしゃいますので、その方たちも巻き込んで子育て支援ができれば良いなと強く思っております。よろしくをお願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。子育てサロンに通い始めて、小金井の子どもたちを育てていただいているかと思えます。ご自身のご経験も活かして取り組んでいただいていると思えますが、とても大切な取組だと思えます。

よく言われるように、孤立した「孤」育てをしないように、孤立した「孤」育ちにならないようにということを私も色々な方々から教えられております。確かに核家族ということで、仕事の関係で小金井に越して来て誰も知り合いがいなくて、それで子どもを育てるということは本当に心細くて仕方がない、という方がいらっしゃいます。小金井市には、子ども家庭支援センターや保健センター、子育て支援に取り組んでいる市民団体がありますし、保育園や学童保育等の現場を活用させていただいて、子育てサロンのようなものを増やそうと努力をしております。そのため、

参加をしていただける方が必要となりますが、参加していただける方々の貢献をしたい、何かの力になりたいという思いが達成される小金井市である必要があると思っておりますし、皆様方の生きがいややりがいになればとても良いことであると思っております。

子育て環境日本一という大変な大風呂敷を広げた私に対して、色々なお叱りをいただいておりますけれども、本気で頑張っめざしていきたいと思っております。子育て環境を良くするということが、まちづくりや人づくりなど色々なことに波及してきますので、この観点は大事にしていきたいと思っておりますが、現状はたくさんの課題がありまして、まだまだ行政がニーズに応えきれていないので頑張っめざしていきたいと思っております。一方で、地域のコミュニティがとても大切だと思っておりますので、行政が介入しない世界であっても、子どもたちと地域の方々が触れ合っ、皆で子どもを守り育てていくというまちは大切ですから、とても良い取組をしていただいていると思っております。ありがとうございます。

○市民B

今のご質問と関連してきますけれども、少子高齢化問題というのは日本全体の問題であっ、小金井市だけの問題ではないと思っております。子育てというのは、地域のコミュニティの中で高齢者がどのように関わっていくのか、ということが一番肝心と言いますか、必要であると思っております。私どもの○町の自治会を見ますと、実際に若い人が入っこない、若い世帯が自治会に参加しっこないということが、大変問題になっております。それとともに、自治会の中で孤立・孤独化してしまっ、その人がやめてしまっことで、地域の環境が段々悪くなっくるのではないかなど。それでは、これをどうしたら良いのかと言っくと、市長が関わりを持ちたくないとおっしゃったけれども、やはり関わっただかないと地域が活性化しっない。地域が活性化して、そこからボトムアップして、段々と小金井市の少子化の問題も解決していくのだらうと、このまちに生まれて良かったなということになるかと思っております。そのためには、高齢者と地域のコミュニティという問題は、やはり前向きに捉えて行かなくてはならないと思っております。高齢者がどんどん閉じこもって病気になってしまったら医療費がかかりますし、高齢者が元気にまちへ出っ行って、子どもたちや

若い母親たちと一緒にまちづくりをしていこうではないか、コミュニティを強化しようではないか、という雰囲気が必要かなど。市長もその辺について協力をお願いいたします。

○西岡市長

決して関わりたくないということではなくて、行政が存在しない地域の中で、子どもたちを中心に多世代の方々が交流できるコミュニティがあるということは、良いことですよねと申し上げたかったわけであります。そのような例は、小金井市内にもあります。児童館等で行われている様々なイベントに私もよく行きますけれども、町会・自治会や子ども会の方々が、子ども縁日等色々な準備をしてくださっていて、良い環境だと思います。ただ、この後のテーマにもなりますが、町会・自治会の加入率はどんどん低下しているんですよ。40パーセントをいずれ切ってしまうのではないかと心配しております。一方で、自主防災組織は市域の半分しか出来上がっておりません。町会・自治会だけがコミュニティではないと思いますけれども、そうは言っても町会・自治会が消えてしまうと大事な地域の絆がなくなってしまうことになるので、町会・自治会の取組は一生懸命応援をして、これを将来に残していきたいと思っております。このまま手をこまねいてしまっていると、地域のコミュニティが本当に心配ですし、ひいては防災面でも困ってしまいますので、町会・自治会や子ども会、これらは昔ながらの組織かもしれませんが、これから、もっと知恵やアイデアを出して楽しい場所にしていくということも必要かも知れません。私としては、この町会・自治会は小金井市の一つの魅力だと思いますので、もっともっと伸ばしていきたいと思っています。

○司会者

他にご意見はございますでしょうか。

○市民F

学童保育所のことなのですが、うちには子どもが2人おまして、保育園の後は学童保育所に5年間お世話になりました。小金井の学童保育所はとても質が高くて、

指導員の方々がすごく頑張っていていただき、子どもたちも楽しく過ごさせて
いただいています。保育園の方は新しい園がどんどん増えているのですが、学童保育
所は今でも9カ所しかなくて、どこも大規模化ということが問題になっていると思
うんですね。それで、うちは下の子どもは障がいがあるのですが、委託される時に
障がい児枠が撤廃され、障がい児を受け入れる環境が全く出来ていないというよう
に思うんですね。大規模化されていって、子どもたちがすごく多い所に障がい児を
受け入れて行かざるを得なくなった場合のことが全然考えられていない、というふ
うに思うんですね。小金井市は、この先、学童保育を一体どのようにしていこうと
考えているのだろうとずっと思っているのですが、一向に新設という話を聞かない
ので、その辺を市長にお聞きしたいなと思っています。

○西岡市長

ありがとうございます。今、ご指摘をいただきましたように、小金井市は一生懸命、
保育園を増やしています。この一年間で、民間の方に新設していただいたり、
既に存在する園の枠を増やしていただいたり、小規模保育が認可になったりと、あ
らゆる方策を講じて、最終的に353人の定員増をめざして、来年の4月から新しい
体制でスタートしていきたいと思っていますが、連動して、小金井市は小学校1
年生、2年生、3年生について希望者が学童保育に全員入れるという、全入です
ね。全国でも多分あまり例がないと思います。これは、小金井市が守ってきた伝統
ですし、魅力というよりはいいことだと思っています。これを私たちは何としても維持
していきたいのですが、しかし一方で、保育園に入園されていた方は大体、皆さん
小学校入学と同時に学童保育に入ってきますから、学童保育の希望者はどんどん
増えていきます。50年後の予測はなかなかつかないのですが、当面、この10年、
15年はですね、学童保育もしっかり対応しなければならない。大規模化ですね。
現在、第三小学校が最も喫緊の課題に迫られています。本町小につきましては、上
水公園近くの児童館を改修して学童に使えるようにいたしまして、何とかやや改善
ができたのですが、本町小の対応に迫られています。ご指摘のようにしっかりと
将来予測をして、大規模化に対応する、場合によっては学校の余裕教室もお借りす
るということも考えたいのですが、児童数の動向というものが、学校によってだいぶ

差が出てきました。現在、三小の地域が非常に増えておりまして、1年生が5クラスになっています。一方で、やや落ち着いている東小等もありますけれども、少し学童を離れますが、小金井市は中央線の開かずの踏切の時代のまま学区域が残されていますので、これは中期的な課題ですけれども、学区域の見直しということも大切な課題になってくるのかなと思います。学童保育の大規模化には、しっかりと対応していかなければならないということで、まずは第三小学校の対応に全力を挙げなければなりませんと思っております。一方で、学童保育と障がい児の方との関係ですけれども、民間委託になった所は誰も入れていないということでもよろしいでしょうか。

○市民F

委託される時に障がい児枠が撤廃されて、今までは5人とか枠があったのを撤廃しましたよね。障がい児は希望があれば受け入れていくということになりましたよね。現在、大規模化されているわけですから、障がい児を受け入れる環境が全く作られていない所で、枠を撤廃しましたが障がい児の方も入れますよ、と言うのは矛盾があるというか、環境が整った上での受け入れだと思えますよ。障がい支援級のほうも希望者がどんどん増えていて、なかなか健常児と障がい児が交流する機会がどんどん少なくなっている中で、学童保育所というのはすごく良い生活の場ですが、両者にとって。それはやはり環境が追い付いていない、それ故にやめていく障がいのあるお子さんも実際にいるわけです。すごい大勢の中に入っていくのは、とてもハードルが高い。その辺を学童保育所・児童青少年課があまり考えていなくて、枠を撤廃しましたが全入ですと言っているように思ってしまうんですよね。その辺について、どのようなビジョンをお持ちなのかなと思っています。

○西岡市長

今、明確な対応方針を述べることはできないのですが、指導員さんも直営、委託に関わらず、一生懸命やっただけでいることは報告してもらってます。ご指摘の撤廃されたということに伴って環境が心配だということですよ。これは小金井市の課題ということで、しっかり受け止めさせていただきたいと思っております。

すが、どのような対応を取ることが望まれるでしょうか。

○市民F

やはり、大規模化を一番初めに解消しなければ、この問題は環境が全然作っていないので、大規模化をどのように解消していくか。その上で、普通級に所属する障がい児は加配がつかないということになっていると思うんですけど、それも少し問題があると思うんですよね。まず大規模化を解消して、でもすぐに解消できないと思うので、指導員さんの力になるのか・・・でも、障害児を受け入れると言っている以上は、環境づくりに対して前向きな姿勢を持ってほしいというところで、適切な指導員の数、普通学級の障がい児に加配を付けないことになっているが、必要な子には加配をつけるような施策をとっていくということはやってほしいと思います。

○司会者

若干、時間がおしておりますので、先程の方を最後にこの議題は一旦切らせていただきます。

○市民G

〇〇町から来ました、〇〇と言います。よろしくお願いたします。二つお話したいことがありまして、一つは幼稚園のこと、もう一つは小中学校、小学校の方が多いとは思いますが、障がいのあるお子さんには保護者が付き添っているというお話についてです。

まず幼稚園のほうなのですが、約40パーセントが市外の幼稚園に通っているという話があります。保育園になかなか入れないということで、色々な対応を行われているかと思いますが、幼稚園については増えてはいないですね。認定子ども園が一つできて、これから増えていくかは別としても、亡くなってしまいましたが、私が知っている方で幼稚園の園長先生がおっしゃったことが印象に残っていて、小金井は幼稚園が二つなくなってしまったが、それぞれ理由はあると思うが、あの時も少し市の方から何かあれば、それぞれ理由はあると思うが、続けていけたんでは

ないかな、というお話が印象に残っています。そこの地域で育っていく子どもたちだと思うので、他の地域の幼稚園に通うと、小金井の地元の友達と交流する機会がなかなか無いまま、ドアトゥドアのバス通園となってしまうと、地域で子どもが育っていくということを考えるとなるべく地元の地域で子どもが育っていける環境があると良いと思います。

もう一つは、保護者の付き添いが求められるということで、小学校になるとなかなか集団になじめないお子さん、うちもそうでしたけれども、学校側も忙しいと思っていますし、それは私も知っています。先生方も一生懸命やったださるのですが、何せ手が足りない。それでどうしようかとなると、子どものことを一番分かっている保護者の方に来てもらうしかないだろう、ということが私の耳にも入っております。何か障がいがあったりして自分の子どもに支援が必要となったときに、親としては何とかしたいと思ってもできない方もいらっしゃるし、それがプレッシャーとなって親子の関係がぎくしゃくしてしまうという話も私は聞いています。その辺のところを学校がフォローアップしていくというか、子どもを育てていく環境の一つとしてとても大事なのではないかなと思います。そういったことも、このビジョンの中に入れていったらいいなと思います。

○西岡市長

ありがとうございました。まず、幼稚園についてでございます。ご指摘のように、武蔵小金井の北口の方には幼稚園が一つしかなくなってしまったんですよ。今年の4月、幼稚園と保育園を合わせたような施設である認定子ども園が、小金井市で初めてできました。地蔵通りの所です。本町小学校の入学式に行きましたら、色々とお祝いの電報が読み上げられていたのですが、びっくりしたのは、小平の6園の幼稚園の園長先生からお祝いの電報が来ていまして、小金井の幼稚園は、私も記憶にないんです。これが現状なんだなということなんです。現在、保育園や学童保育の大規模化対策に集中していますがけれども、幼稚園を希望される方も当然いらっしゃるんで、幼稚園もこれからの大きな課題であると認識しております。私としては、認定こども園を1園作りましたので、小金井市としても初めてなのですが、今後の動向を参考にしながら、認定こども園を増やしていくという選択肢もあるの

かなと思っております。幼稚園事業者を誘致するというのは、経営的な観点などもありまして、なかなかすぐには実現できないかもしれません。でも、認定こども園ということであれば、経営者の方々の判断ということになるのかなと思いますので、今後、取り組んでいきたいと思えます。一方で、今ある幼稚園の方々が、ずっと小金井市にいていただける環境を作るといことも大切だと思っております。幼稚園というと、今や小金井市にあるのは70年の歴史を持つ幼稚園ですので、すごい数の卒園生がいらっしゃるんですね。園長先生も三代目になりつつありまして、この間も、とても若い方がなられましたよね。幼稚園についても、大切な課題として位置付けますし、将来においても、これは大きな課題であると思っておりますので、がんばって取り組んでいきたいと思えます。

それから、障がいのあるお子様が学校で生活をする際の介助員の手が足りない、ということでもあります。その声は私もたくさん聞いてまいりましたし、たとえば二小に行きますと、一生懸命手伝いされているお母様の色々な声を聞いたりします。まだまだ、小金井市として十分なフォローアップが出来ていないことに対しまして、大変申し訳なく思っております。一方で小金井市としても28年度からさらに支援員を増員したりですとか、来年は特別支援教室を全学校に作ったりと、新しい取組を進めているのですけれども、いわゆる通級の中で一緒に生活をしている方もいらっしゃると思いますので、ここは私たちの取組がまだまだ甘いと思えばいけないと思えます。ビジョンに入れていくということなんです。

○市民H

私は、小金井で結婚して住んでいる一家族の者として、もう50年になろうとしています。子どもを3人育てまして、本当に小金井に住んで良かったなと感じているところですが、住み始めた当時から比べれば本当に変わってきているのは事実です。幼稚園のことは本当に深刻で、孫たちが幼稚園に行きたくないということです。幼稚園があって、その地域の小学校に皆が行けば、お母さん方の顔合わせがあって小学校にすごく行きやすく、PTA云々をやる時もスムーズに行く。ですけど、今は何十カ所もの幼稚園からも集まってきて、もうバラバラの状態と言うか、数人ずつのお母さんが集まって地域で顔を合わせるということはあるのでしょうかけれど

も。そういう話を聞いた時に、私たちの時のように何カ所かの幼稚園から何十人かずつ行くという方が、お母さん方のチームワークとか色々なことが図れて良かったなということを感じさせていただきました。是非、北の方にも幼稚園を作っていたらと思います。

それと少し感じていることなのですが、私も緑小、緑中、二小関係だったのですが、子どもを育てた後、中学生が体験学習で何人かで地域の桜町病院とか色々な所を訪問しているということを知った時に、すごく良い事だな、子どもたちがそういった奉仕であるとか、障がいのあるお子さんの所を訪れて色々なことを勉強させてもらうということ、それらが将来どれだけ大きな財産になるのだろうと。是非、小金井として続けていっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。北口に幼稚園をとということで、ご要望として受け止めさせていただきます。今、中学生は職場体験やボランティア活動に一生懸命取り組んでくれています。職場体験は非常に良いなと思います。市役所にも中学生がよく来ます。第二庁舎1階の受付に座って、来る市民の方々に色々な部や課を案内してくれたりですとか、色々な現場に行ってもらって業務を体験してもらったりしています。大体、三日間くらいですが、それでも良い経験になると思いますし、商店街へ行ってレジを打ったり、品物を陳列したり、福祉の現場へ行って勉強してもらう等。また、青少年の科学の祭典や歩け歩け大会等の色々なイベント会場でも、中学生の方々に積極的にボランティアに来てもらっています。このような体験をたくさんできるまちでありたいと思いますので、今後も一生懸命頑張っていきたいと思っています。教育委員会もやる気があると思っていますので、こういうことも小金井の魅力の一つとして位置付けられればと思っています。

○司会者

それでは、次に安全・安心の議題に移らせていただきたいと思います。では、このテーマに関しまして、市長のほうから簡単に何かあれば説明をお願いします。

(3) 安全・安心 及び (4) その他 (自由意見)

○西岡市長

時間もあまりなくなってきましたので、私のほうからは特に。ただ、防犯・防災、地域コミュニティ。市民の方々にとって持続可能なまちであるためには、安心、安全というものがとても大切であると思っております。30年後、50年後を考えたとしても、小金井というまちが、先程の新婚さんの話でもありましたが、ほっとして落ち着くまちということで、まちの価値や魅力としては、安心・安全度が高いということがとても大切です。しかし、一方で小金井市はとても治安が良いまちだというふうに、私も思っていましたし今でもそうであると信じておりますが、ただ、現実には振り込め詐欺の被害額が相当なものですし、一時期は空き巣も多いことがありましたし、不審火などもつい先日ありましたから、小金井といえども、まだまだ色々な課題があります。この安心・安全、防犯・防災は、やはり地域が大事であると私は思っていて、地域が命を守るまちということを目指して頑張っていきたいと思っておりますが、もちろん、行政や警察、消防など関係機関も一所懸命頑張りますし、将来にわたって消防団もずっと永く残ってほしいと思っております。でも、地域コミュニティがやはり非常に大切なのだなと思っております。

なお、ちょっとした報告なのですが、現在、街路灯を全部LEDに変えておりました、約8,500の街路灯があったのですが、もうすでに約1,500が変わっておりますが、11月6日から、約3、4か月、来年の2月くらいまでに残り約7,000の街路灯を一斉にLEDに変える工事をします。一日100ぐらいずつ変えていくようですが、まちが夜間の防犯のために少しでも明るくなればと思っております。街路灯を変えたからと言って、急にまちの犯罪がなくなるというわけではないですが、交通安全や様々な面で効果がありますし、消費電力が少ないですし、二酸化炭素排出量も少ないですし、何よりも長寿命です。非常に長持ちします。10年以上は持つと言われておりますので、このような取組もスタートしたということをお報告させていただきたいと思っております。安心・安全について、時間がないので、その他の自由意見も含めて色々な意見を寄せていただければと思っております。

○市民A

市長さんが毎日座っておられる議会、忙しい時は行けませんが、僕はとにかく小金井市の議会を10年以上傍聴してきました。小金井にいかにお金がないか、お金がないのに予算を決めると、俺の方へ補正予算だか何だかをよこせだとか、再分割の闘争に入るわけですね、毎年、毎年。市長さんにトイレで会った時に、本当に金がいっぱいあるのだったら、反対意見を言った議員に札束をバーンと投げつけてやりたいでしょと言ったら、市長さんは笑っていただけなんですね。お金がないならどうやって生み出すのか。フリーマーケットは、小金井で一番活気があるところだから、元のように毎週毎週やってもらえないかと言ったら、それも変な議員が出てきて、そんなことを俺たちにやらせるのかよ、勘弁しろよと怒鳴られましてね。そんなこともありました。

それから、今日もそうなのですが、こういう席を設けると、大抵は真ん中や前の方が空いてしまうんですね。これは、かえって日本の良い文化なんではないかなと思うんですよね。このような謙虚さがあるからこそ、東日本大震災の時だって少ない食料を皆で均等に分け合って。海外では略奪や暴動が必ず起きると、世界中の人が見てるわけですよ。会場の席だって皆で譲り合うとか、日本の文化としてあると思うんですよね。以上です。

○西岡市長

今、たくさんのご意見をいただいて、大切なことをおっしゃっていただきました。市の財政ですね。30年後も50年後も小金井市がまちとして持続していくためには、市の財政状況も持続していけるものにしていかなければならないと思っています。今、ここで行財政改革プラン2020、行財政改革アクションプラン2020を策定したばかりでございます。議会で活発なご議論をいただきましたけれども、このまま何もしないで行けば、市の財政は本当に厳しい状況に陥ります。そして、さらに公共施設の老朽化という問題がありまして、学校施設ですとか今いるこの場所もそうですし、小金井市では、公共施設の60パーセント以上が築30年以上のものとなっています。大半は学校が占めていますけれども、その更新が必要です。道路の下に埋まっている下水管も相当老朽化していますし、橋もあります。これら

の公共施設を全部更新すると、いくらかかるか試算をしましたら1,500億円かかるという結果が出ました。小金井市の年間予算が、一般会計402億円、特別会計を含めて620億円くらいですけれども、1,500億円というのは、すごい金額です。それについては、行財政改革の取組について、せっかく担当課長にも来てもらっているので、現状について説明してもらいたいと思います。

○行政経営担当課長

今、市長からお話がありましたけれども、財政状況について端的に言うと小金井は不交付団体、地方交付税交付金を受けられない団体です。そうすると、財政力があって良いだろうという話になるのですが、もう少し財政力が強い、例えば武蔵野市のようにであればそれはすごいですね。逆に低ければ地方交付税交付金、それこそ10億円くらいいただけるわけです。私、納税課長をやっていましたが、億というのはとんでもない数字でして、今、税収は212億円くらいありますが、それを少しでも増やす、お支払いいただくというのは大変なことでございます。その中で毎年10億円くらいやりくりをしてきたのですが、今後、まちづくりやゴミ処理などに費用がかかりますし、待機児童の解消に大変な金額を投入して取り組んでいます。その上に、さらに公共施設もということになりますと、市を揺るがした退職金問題は10億円くらいでしたが、それをやり繰りして6.5億円、東京で初めて退職手当債で借りたという、私が役所に転職する前でありましたが、大きな事件でした。それと比べて150倍ですから、仮にお金をやり繰りしても仕事も増えますので、そういう意味では今から取り組まなければならないということで、6億円くらいの財政効果と、職員を80人、減らすと言っても退職者分になります。80人分の仕事を見直すという取組を進めています。アクションプランで、6.8億円の目標に対して4.85億円、80人の削減目標に対して59人分を積み上げたところです。それによって、減らすところは減らして福祉などの職員を増やすような取組を進めているところです。ただ、あえて言えば今までは人口が右肩上がりか微増という状態の中で行政経営をやってきましたけれども、今後は横ばいから減少に向かう中で、税収が減る中でも市民サービスをあげる必要がある。高齢化とかバリアフリーなど対策が必要ですから、使える額を上げなくてはならない、そういう転換期に入って

6. 8億円をめざそうと頑張っているところです。行財政改革市民会議のほうで、市役所はPPPだ、計画して計画して計画してばかりで、実行と見直しとそのアクションが足りないという大変なお叱りを受けまして、私も本町五丁目在住で子どもは本町小に通っていますけれども、将来、子どもから石を投げられるような仕事はしたくないので、是非、良い小金井にしたいと。まだ、1,500億円の入り口でございましてけれども、市民の方に見える化と言いますか、市民の方に見ていただきながら、お叱りもいただきながら行財政改革を進める必要があると思っていますので、情報等も出していきますので、その取組にご注目をいただければと思います。まだ端緒についたばかりですが、これから実行していきたいと思っています。

○市民G

今、財政のお話は理解しました。お金とは別なところの話をさせていただきたいのですが、先程のこの資料の中の5ページの基本目標3の安全、安心に暮らせるまちの話をさせていただきます。その中の高齢者、障がい者の自立ということでお話させていただけたらと思います。今、自立支援協議会で、差別解消法に伴う小金井市オリジナルの条例案を作っているということで、色々な議論があるのですが、市長が公約として条例を作るということなので、どのような思いを持っていらっしゃるかをお聞きしたいと思います。

○西岡市長

障害者差別解消法、条約が批准されて、国の法律ができて、障がいのある方々が安心して暮らせる地域共生社会をめざすということが決まり、それに基づいて法律が定められました。私としては、生まれた命は皆大切な命だと思っていますので、その命が不当な、不快な差別や抑圧を受けて生きていかれるような社会であってはならないと考えています。そのためには、専門的には合理的配慮ですとか難しい言葉もありますが、例えば市役所の窓口であれば手話ができる人が常にいるとかですね、要約筆記ができるような仕組みがいつもある等、民間で言えば車いす使用の方がレストランを利用しやすいような設備を整える等、様々なことでこれから小金井市が条例をすることによって、不当な差別を受けないような、そういう小金井市を

めざしていきたいと思っています。現在は、まだまだ検討中でありますので、具体的な条例の内容はこれから自立支援協議会の議論によるところかと思いますが、市の対応もこれから求められてくるかと思っています。元々、障がい者差別の条例については色々な経過があったようであります。私としては、是非、小金井市として条例化をしたい、という強い思いを持って臨ませていただきました。約2年間、自立支援協議会の方々が一生懸命に議論を積み上げてきていただいておりますので、当事者の方々の声を聴いてまいりましたので、当事者の方々の声も可能な限り反映できるように、そのような条例をめざして努力してまいりたいと思っています。基本的な理念としては、生まれた命は皆尊いものであり、同じ立場であるということを知るべきですし、学ぶべきですし、障がいのある方々も安心して小金井というまちで暮らせる、そういう目標を持って市としても臨んでいけるようにしたいと思っています。

○市民F

私、この条例にすごく期待をしております、うちの娘が自立生活をする頃には、こういう条例が非常に重要になってくるのだろうなと思っています、自立支援協議会の皆さんの努力は敬意を持って見ていたのですが、昨年の障害者週間で、少しお披露目がありましたよね。その時から1年ぐらい経つのですが、あまり広報をされていないなと思っています。自立支援協議会は割とクローズドな中でやっているものですから、他の市民の方に、今、こういう条例が作られているということが、伝わっていないのではないかと、このことをすごく危惧しているところです。もし、今年度中に条例化がされて来年施行となった場合に、どのような形で広報していくのかというのが気になるところです。できれば、学校教育の中で子どもたちに伝えていってほしい。と言うのは、子どもの頃からそういう平等意識を学んでおかないと、大きくなってから平等意識を持とうと思っても、根っこの部分でそういう意識がなければ、なかなか持てないと思うんですよね。学校教育の中でやってほしいと思っています。いつも思うのですが、小金井市は、子どもの権利条例もそうなのですが、条例は非常に良いものを作ってくださいなのです。しかし、その後のプロモーション的ところが非常に雑だなど。条例を作った後の広報を少し工夫してほしいと、こ

れはお願いをしておきたいと思います。

○西岡市長

とても大切なご意見をいただきました。条例も大切なものです。途中で見直し等の手が加わっていくとは思いますが、30年後、50年後の将来にも残していかなければならないものだと思っています。今は制定過程でありますけれども、制定後における広報の重要性ということは、今、痛切に痛感したところであります。

○企画政策課長

確かにおっしゃるとおり、行政というのは市民の皆様に宣伝と言うかプロパガンダをするのが非常に苦手でございます。ただ、西岡市長が就任して以降、色々な媒体を使って少し挑戦してみようというところはチャレンジをしているところです。今、ご案内の差別解消条例につきましては、小金井市市民参加条例というものがありまして、一度、条例を作る前にはその原案を市民の皆さんに見ていただく期間を1か月間、必ず設けるようにしています。今、そこの時期を迎えようとしていると聞いておりますので、是非、そちらをご覧いただきまして、ご意見がありましたらお寄せいただければと思っております。広報については、ここに広報秘書課長もおりますので、頑張ってもらえると思います。

○市民F

是非、パンフレットだけで終わらないように、色々な形で工夫してやっていただくのが良いと思います。あと、是非、庁内の方に研修をしていただきたいなと思っていて、自立支援協議会は、支援者の方や当事者の方が入られているので、いろんな面で分かってらっしゃると思いますが、これから運用していくにあたって、庁内の皆さんが差別とは一体何なのか、この条例はどういうことで作られているのかということを理解していただけないと、市民の皆さんに伝えることもかなり難しいと思います。相談事例が上がってくると思いますが、その相談に対してどのように対応するかということは、各部局の皆さんが直面することだと思いますので、是非、研修に力を入れていただきたいなと思います。

○行政経営担当課長

横から口を挟んですみません。現在、自立生活支援課の職員が講師となって、職員向けの研修に力を入れています。人権の研修と差別解消にかかる研修、それと別物でストレスに関する研修ですね。もちろん、条例が作られましたら研修に磨きをかけて、我々ももっと勉強しなければならないと思っています。今後の研修内容をブラッシュアップできればなと思っています。

○西岡市長

本日は手話通訳を2名の方をお願いしています。ありがとうございます。市が主催するこのような行事には、可能な限り手話通訳の方に来ていただくようにしています。もう一つは、保育所を設けるようにしています。子育て中の方は、なかなか夜の会合には出にくいので預けられるように、下で保育士さん2名に待機していただいておりますけれども、これらのことにもしっかり取り組めるような市役所をめざしていきたいと思っています。

○市民B

もう時間がありませんから、最後に3つ申し上げます。1つ目が、今日はたくさん参加されていますけれども、男性と言うか、働く社会人の参加率が低いのではないかと。女性の方だけ参加しても。せっかくこのような時間にやっていますから、働く社会人の人たちの声、質問を聞いてみたいと思います。2つ目は、グランドデザインの件になりますけれども、新庁舎の問題が出ていましたが、では新庁舎が完成するまでに大地震が来た場合、今の第一庁舎は持つのですかと。もし、あそこが持たない場合、指令本部を失ってしまいますよね。私なんか市民の声を聞くと、大丈夫ですかと。そのことについて、市にもう少しはっきりしてもらって、万が一、大地震が発生したとしても大丈夫だよと。地震はいつ起きるか分かりませんし、オリンピックより前に起きるかもしれません。それについて、どうするかということを考えていただきたいです。3つ目は、安心、安全の問題でありますけれども、小金井市は自転車泥棒が非常に多いです。その自転車泥棒の延長線上に詐欺が増えて

います。空き巣も増えています。自助公助と言いますが、自助、要するに自分の身は自分で守るんだよという、自転車の鍵をかけるとかは徹底していかないと。自転車泥棒とか、詐欺とか、空き巣等に対して、自分たちで自分たちの生活を守るといようなアピールをしていただけたらと思います。以上です。

○西岡市長

ありがとうございました。あらゆる世代の方々と、このような意見交換の場を持ちたいと思っています。今もお話がありましように、平日、あるいは土日も含めて一生懸命お仕事をされている方は、女性も男性もたくさんいらっしゃいます。中央線に乗って都心に向かい、お仕事をされて、小金井にお住まいの方々にも、このような場に来ていただけるように努力をしたいと思いますが、無作為抽出による市民討議会というものを開いたことがあるのですが、何かこのような市民参加の会合をする際には、年代、幅広い方々に参加していただける工夫、無作為抽出をして参加を呼び掛ける、そのような手法も考えなければなりませんし、将来は、色々と多様な手法を組み合わせていくやり方が大事だなと思います。庁舎の件は良く分かりました。熊本のように震度7が2回も発生する等、大災害は全て想定外ですね。ただ、行政としては、想定外だということは言えないので、震度7が2回発生するということも念頭に入れておきたいと思いますが、今度作る庁舎と新福祉会館というのは、防災の拠点となります。庁舎は災害対策本部になりますし、新福祉会館は災害発生時のボランティアの方の拠点となる場所です。そして、あそこの広場には防災広場として色々な活用が考えられます。免震構造も含めて、地震に最大限強い庁舎というものを作っていけるように努力したいと思います。確かに、小金井市の犯罪の中で、自転車の盗難が非常に多いということは警察から聞いています。防犯に対する取組についても、小金井市としては行政や警察だけではなく、地域ぐるみで取り組むことも大事だと思っております。放置自転車も自転車盗難と関連する部分があるのですが、放置自転車対策にも力を入れてまいりたいと考えております。以上です。

○司会者

それでは、時間となりましたので、これで意見の受付は終了させていただきたいと思えます。最後に、市長より一言申し上げて終了とさせていただきます。

6 閉 会

○西岡市長

皆様、今日はありがとうございました。たくさんのご意見をお聞かせいただきました。このようなスタイルでやるのは、今日が初めてですし、私としては、来年度から新たに取り組む基本構想とともに、将来的なグランドデザインづくりというものにも、市民の方々と一緒に取組ませていただきたいと思いますと思っております。今日、お寄せいただいたご意見や、このような形でやらせていただいたことについては、本格的な取組に移行する際の参考にもさせていただきます。また、いただいたご意見については、大切なお意見としてしっかり反映させ、取り組んでいけるように努力してまいりたいと思っております。私も市長に就任して2年が経ちましたけれども、まだまだたくさん課題に取り組んでいるところでございます。小金井市というまちを今ある課題を乗り越えて、皆さんの今の市民生活をしっかり支えていけるように、子どもたちのためにも頑張るということはもちろんですが、これから生まれてくる子どもたちや将来の方々のためにも、この小金井市というまちを皆様と一緒にバトンタッチしていく、引き継いでいくということもとても大切であると思っております。小金井がこういうまちだったら良いなというビジョン、グランドデザインを皆様と一緒に作り上げていくということもとても大切だと思っております。行政は10年間の基本構想を作り、1年ずつ計画の実現に向けて努力をしておりますけれども、私としてはその先の将来像、未来像というものもとても大切になっていくと思っておりますので、今後もこのような対話の機会を作らせていただき、大切にしたいと思っております。是非、色々なご意見をお寄せいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

○司会者

以上をもちまして、平成29年度第3回市民と市長の座談会を終了させていただきます。

きます。本日は、たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。アンケートと画板につきましては、退室の際に回収させていただきますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。